

## 社会奉仕と世界社会奉仕

社会奉仕はCommunity Service の邦訳です。Social Service ではなく、Community Service であることに注目したいと思います。Community Service という言葉は、1927年にベルギーのオステンドで開催された国際大会でAims and Objects Plan が採用されて、ロータリーの奉仕活動が四大奉仕に分化された時に生まれました。その際にCommunity の範囲が市民生活を営む場と規定されたことから、現在と同様な狭義なCommunity、すなわち地域社会と解釈されるようになったものと思われます。

それでは四大奉仕に分化する以前はどうだったのでしょうか。1916年に発行されたガイ・ガンディカーのA talking knowledge of Rotary では、Community を会員の属する家庭、町、州、国、社会全体と定義しています。決議 23-34 も四大奉仕に分化する以前に制定されたドキュメントですから、当初はその活動の場をロータリーの綱領に基づくすべての活動と拡大解釈していましたが、1926年のデンバー大会において、その活動範囲を現在の狭義のCommunity すなわち地域社会における奉仕活動に限定して、現在に至っています。

ほとんどのロータリアンは、社会奉仕とは地域社会の人たちに対する奉仕活動、世界社会奉仕とは他国の人たちに対する奉仕活動だと解釈していますが、それは正しい解釈なのでしょうか。

ボーダーレス社会の到来と共に、Community の定義が大きく変わりつつあります。ボーダーレスはすなわち国境のない社会ですから、地球全体を一つのCommunity と見做さなければなりません。従って、今後の社会奉仕はCommunity の範囲を地球全体に広げて、従来の世界社会奉仕を含んだものになっていかなければなりません。

決議 23-34 では、すでに他の組織によって行われている奉仕活動を、ロータリークラブが重複して行うことを禁じています。日本では身体障害児対策、高齢者対策などほとんどの分野で行政や専門団体が活動しており、その隙間を探して、ロータリーが入り込むにはかなり苦労しなければなりません。そのせいもあってか、ほとんどのクラブの社会奉仕活動報告をみると、「・・・に協力」「・・・に援助」と、1万円か2万円の寄付金でお茶を濁している例が多いようです。ロータリークラブは他の組織に寄付をする組織ではないことは言うまでもありません。

地元の地域社会での奉仕活動の実践を目指すのならば、ぜひその現場を訪れて地域社会のニーズを探り、行政や専門団体が見過している分野の奉仕活動を見つけてください。地元の地域社会でそのようなニーズを探し出すことができなければ、ぜひその対象を世界全体に広げてください。飢餓、疾病、貧困、教育、私たちの助けを必要としている人々は無限に存在しています。世界社会奉仕も社会奉仕の一部なのです。いや世界社会奉仕の一部に地域社会への奉仕があるのです。

世界社会奉仕を国際奉仕の一部だと考える人が多いようですが、私はその考えには反対

です。なぜならば、ロータリーの綱領には、国際奉仕とは「奉仕の理想に結ばれた事業と専門職務に携わる人の世界的親交によって国際間の理解と親善と平和を推進すること」と定義されているからです。従って、綱領を厳密に解釈すれば、ロータリー友情交換やグローバル・ネットワーク(従来のロータリー親睦活動)や青少年交換、ツインクラブなどが国際奉仕の活動であり、世界社会奉仕は **Community** の範囲を世界全体に広げた社会奉仕活動だからです。

2007.2.24